

教員の加配の継続に関する要望

要望の要旨

本市の学校の現状は、震災から8年が経過した現在でも、精神的に不安定な児童・生徒も多く、また、当時乳幼児で、愛着障害の症状をもった子どもたちも多く入学しております。そのような状況で、教職員は児童・生徒の心のケアのほか、保護者への相談対応等も多く、業務過多になっております。

これまで被災地に対して教育復興加配を主として、多くの教職員が加配されていたことは、子どもたちの健やかな成長に大変効果的なものでした。

教育環境や児童・生徒、保護者の心の安定を図るためには、マンパワーが何より必要であり、「加配」は大変ありがたい支援であることから、教員の加配の継続支援を強く要望します。

要望の理由

乳幼児期に震災の混乱を過ごし、心に不安を抱えた子どもたちが入学後の学校生活になかなか適応できない状況

が見られるほか、震災で地域のコミュニティが失われ、児童・生徒を取り巻く環境が大きく変化するなど、震災前になかった課題を学校が抱えております。

教職員については、震災以降、事務量はもちろん、児童・生徒の心のケアや保護者対応など、一人当たりの業務量は更に増加しております。そのような状況で、本市をはじめ被災地に優先的に教職員を加配していただいていることは、教育活動を正常に近い形で行うことができ、子どもたちの成長に絶大な効果がありました。

しかしながら、今年度より教育復興加配数が削減され、教職員の負担は急増し、子どもたち一人一人への対応が厳しい状況になっていることから、加配の継続と本市への優先的な教職員加配の実施を要望します。